会員の提言

1　我が国における医科学史料の収集について

会田　恵

我が国では近年種々の分野での歴史的資料の保存がかなり見られるようになって来ているが、自然科学史に関する資料館は極めて少ない。

これは我が国での自然科学の成立史の関係もあると見られるが、医史料についても医療制度、医療史に比べて自然科学としての医科学の発展についての資料の収集と系統的な保存は少ない。このような関連の自然科学史を含めた医科学史の資料収集と管理、そして展示という社会にむけた資料館は我が国では極めて困難な事業と思われるが以下私見として述べてみたい。

医科学史の資料としての収集が臨床・基礎共進められる場合には、医療に実際利用された医科器械の資料が具体的な理解しやすいものになるが、当然医科器械として科学技術により実現するまでには広範な医科学史、自然科学史が前提となるのであり、例えば明治以後のカタログにみられるように、我が国では医科器械についても、その源流は欧米に負う所が多く、原型からの資料収集と保存も可能な限り考慮されるべきである。

医科器械のなかでは顕微鏡はその保存性と大きさの関係から最もよく収集され、保存と管理もされている事は周知の事であり、これ以外の他の検査診断用の器械となると、保存され管理をされているものは今日稀にしか見られない事は残念な事であるが、保存が困難な事情もあると考えられる。

医科学の進歩は特に診断のうえでは基礎医学及び関連の自然科学の発展を背景として来ている事は歴史が示している通りであり、我が国では基礎的な研究への社会的な関心も要請も少ないと指摘されて来ており、特に基礎的な医科学に関する資料は啓蒙活動としても重要である。つまり自然科学の進歩と共に発展して来た医科学と医科器械の資料の収集と保存が同時に進められる事が、重要であり若い医学生への教育資料として考えられるべきであろう。

ところで医科器械資料館が「日本医科器械資料保存協会」

によって平成七年三月に千葉県印旛村に開館された事に関係者のご尽力に深い敬意を表したい。実は最近見学をさせて戴いているが、多数の展示品に感慨深いものがあったが、臨床検査関係の各種比色計、光度計などの診断用器械が前身の青木コレクションの目録には種々出ているがまだ展示されていないものがかなり多く残念であった。今後は内外の関連の文献などの整備と共に医科学及び科学技術により医療と苦労して来た進歩の跡が診断器械も含めてより整備される事を願っている。

ある種の臨床検査器械が出現するまでとその発展には、繰り返し述べているように、その検査法自体の背景の長い基礎的な研究史と開発史、医療の現場での業界との科学技術史の変遷と発展があるのであるが、まだ余り知られていない。これらの変遷の資料の収集も近代より現代への医科学史、医療史の発展の重要な柱なのである。

科学技術の進展を今後我が国では一層進める方向にあり、医療技術特に診断技術についてもこれまでの歴史的な関連の基礎的な理論に関する資料その他がより多く収集管理され、受容と発達の経緯が整理されて我が国の医科学の今後の発展への参考になればと考えるものである。

2

石崎　達

医史学会に入会して十年近くなりますが、私は祖父の業績を三回にわたり発表しました処、驚いたことにそのどれもが医史学上空白部分をみたすことになりました。

何故そうなのか、明治初期の資料は失われたものが多かったのか、その理由はわかりません。ただ医史学会の存在理由が判然としまして、それに参加できた喜びを感じております。

学会で発表される報告は私のような素人とちがってライフワークとも思われるものが多く、学会に出席するのが楽しみになっております。

そこで私自身のことを申上げますと、家には二百年来の蔵があって古文書がよく保存されていた。私で八代目の医師（御典医）の家系で代々保存がよかったことに気付きました。とすると医史学の史料の蒐集には条件に合った医家を探して、こちらから出掛けていって資料があれば見せて戴き、写真にとったり携帯用に新しく開発された小型のコピー器を持参して、そこでコピーさせて戴けば資料が手に入り易いのではないかと考え、そのコピー器（安い）を買入れ